

ルワンダ月報（２０１９年６月）

主な出来事

【内政】

- 議会上院選挙のスケジュールが発表された。

【外政】

- ９～１０日、チセケディ・コンゴ（民）大統領夫人がルワンダを訪問した。
- １０日、カガメ大統領はガボンを訪問した。
- １４～１５日、グローバル・リーダーシップ・サミットがキガリにて開催された。
- １８日、カガメ大統領は、ヨーロッパ開発デー（ＥＤＤ）出席のため、ベルギーを訪問した。
- ２６日、カガメ大統領夫妻は、マダガスカルの第５９回独立記念式典に出席した。
- ２７日、ルワンダとＵＡＥアラブ首長国連邦は、労働者の移動について署名した。
- ２８日、カガメ大統領夫妻は、ボツワナを訪問した。

【経済】

- １７日、ルワンダ航空が広州便を就航させた。
- ２０日、ＫＯＩＣＡとルワンダ開発庁（ＲＤＢ）がＩＣＴイノベーション・センターを設立した。
- ２４日、ルワンダ航空がテルアビブ便を就航させた。

【その他】

- ２８日、ルワンダは、ルワンダ・東アフリカ地域電子パスポートの発行を開始した。

※以下は、明示したものを除き、ルワンダの英字日刊紙 The New Times の記事を取りまとめたもの。

【内政】

・議会上院選挙スケジュール（１２日）

7/22～8/9：立候補者登録

8/27～9/15：選挙キャンペーン

9/16：投票日（４県とキガリ市の１２名を選出）

9/17：投票日（国立大学及び高等教育機関の教師から１名を選出）

9/18：投票日（私立大学及び高等教育機関の教師から１名を選出）

9/30：選出された上院議員の発表期限

【外政】

・ チセケディ（Denise Nyakeru TSHISEKEDI）コンゴ（民）大統領夫人のルワンダ訪問（10日、11日）

9～10日、チセケディ・コンゴ（民）大統領夫人がルワンダを訪問し、カガメ大統領夫人主催の晩さん会に出席したほか、女性を暴力から保護する施設などの視察を行った。

・ カガメ大統領のガボン訪問（11日）

10日、カガメ大統領は、二国間協力強化のため、オンディンバ・ガボン大統領を訪問し、ガボンがアフリカの利益、構想、戦略において中心的役割を果たしてきたことを賞賛した。また、6月初旬に有効となったアフリカ大陸自由貿易地域（AfCFTA協定）が大きな進歩を遂げたと述べた。

・ グローバル・リーダーシップ・サミットの開催（12日）

14～15日、カガメ大統領は、キガリで開催されたアイゼンハウワー・フェローシップ（EF）主催のハイレベル会合に出席した。1953年のEF設立以来、アフリカでのサミット開催は初めてであり、アフリカの世界経済への統合の加速、アフリカ域内貿易の発展、若者の雇用促進のための教育システムと技能発展について議論された。

・ AU改革委員会のルワンダ来訪（16日）

15日、カガメ大統領は、7月7日～8日にニジェールで開催されるAU及び地域経済コミュニティ会議に先立ち、ルワンダを訪問したAU改革委員会とAU改革の進捗について議論した。

・ カガメ大統領のベルギー訪問（18日：RNA）

カガメ大統領は、ヨーロッパ開発デー（EDD）出席のため、ベルギーを訪問した。今年のEDDのテーマは「不平等の解消：誰も取り残されない世界の確立」であり、カガメ大統領の演説が予定されている。サル・セネガル大統領、フォンセカ・カーボベルデ大統領も出席した。

・ カガメ大統領夫妻のマダガスカル独立記念式典出席（27日）

26日、カガメ大統領夫妻は、マダガスカルで開催された第59回独立記念式典に出席し、ラジョエリナ・マダガスカル大統領と二国間協議を行った。2016年、ルワンダ開発庁（RDB）とマダガスカル経済開発庁（ECDBM）は、二国間の投資促進及び専門分野の発展と強化に関する覚書を締結している。

・ ルワンダ・UAE間の労働者の移動に関する署名（27日）

27日、ルワンダ公共サービス・労働省（MIFOTRA）とUAE人的資源・国家自立省は、ルワンダ人のアジア労働市場参入に関する覚書に署名した。

・ カガメ大統領夫妻のボツワナ訪問（28日）

27～28日、カガメ大統領夫妻はボツワナを訪問し、貿易、投資、健康、観光、鉱物、平和と安全保障の枠組みに関する協定の署名について、マシシ・ボツワナ大統領と二国間会談を行った。

【経済】

・ルワンダ初の国産スマートフォンの発売予定（７日）

６日、M a r a社（携帯電話製造）は、キガリで開催された「Made-in-Africa リーダーシップ会議」において、２か月以内に初の国産スマートフォンを国内及び海外の市場で発売すると発表した。

・ルワンダ航空の広州便の就航（１８日）

１７日、ルワンダ航空が広州へ商業便の運航を始め、貿易、観光、出張者の増加が期待されている。また、ルワンダ航空は米国への就航を計画しているが、国際航空運送協会（IATA）は、アフリカの航空会社が２０１９年に３億米ドルの純損失を計上すると見込んでいることから、米国への就航については戦略的にならなければならないと述べている。

・韓国国際協力団（ＫＯＩＣＡ）とルワンダ開発庁（ＲＤＢ）によるＩＣＴイノベーション・センターの開設（２０日：RNA、２２日）

２０日、ＲＤＢとＫＯＩＣＡは、視聴覚技術に特化したＩＣＴイノベーション・センターを開設した。５６０万米ドルを投じた同センターは、求職者とスタートアップ企業の能力構築を目的とし、マルチ・メディア及びモバイル・アプリケーションの開発技術を習得したい求職者向けに、質の高い研修を提供する計画である。

・ルワンダ・ブルンジ・タンザニアによるルスモ水力発電所の建設（２３日）

２１日、ガテテ・インフラ大臣（ルワンダ）、マニラキザ・エネルギー大臣（ブルンジ）、カレマニ・エネルギー大臣（タンザニア）がルワンダ・タンザニア国境近くのルスモ水力発電所（８０MW、世界銀行の資金）の建設現場を視察した。同発電所は２０２１年２月に完成予定である。

・ＫＯＩＣＡによる農家の生産性向上プロジェクトの継続検討（２３日）

韓国国際協力機構（ＫＯＩＣＡ）は、本年１２月までの６年間実施している農地の生産性向上プロジェクトの継続案件として、ＩＣＴを通じた農家の生産性適正化プロジェクトに対する１、１００万ドルの供与を検討している。

・ルワンダ航空のテルアビブ便の就航（２５日）

２４日、ルワンダ航空がイスラエルのテルアビブへの運航を開始した。テルアビブはUAEに次いで２９番目の渡航先となり、週３便の運航を予定している。

【その他】

・第８９回仏語圏市長国際機構（ＡＩＭＦ）会合の開催（１日）

１～４日、キガリにて、第８９回仏語圏市長国際機構（ＡＩＭＦ）会合が開催され、１００人以上の仏語圏の市長が、都市開発、ルワンダの再建、統合、融和の過程について議論した。マリー・シャンタル・キガリ市長は、キガリ、パリ、ルワカジナ市間で、環境保護、ＩＣＴ、文化・スポーツ、インフラ、市民参加、史料・記憶の分野における協定が結ばれたと述べた。

・世界環境デーへの参加（５日）

ルワンダは、５日の世界環境デーに際し、“大気汚染撲滅”を掲げた大気汚染の原因及び削減方法に関する啓発イベントを開催した。

・乳幼児死亡率の大幅改善（４日）

６月初旬にセーブ・ザ・チルドレンが発表した２０１９グローバル子供白書によると、ルワンダの５歳未満の乳幼児死亡率が、２０００年以降７９％改善した。

・ヨーロッパの動物園からクロサイの贈呈（１２日、２４日）

１６日、チェコ、英国、デンマークの各動物園から、２～９歳の雌３頭、雄２頭の計５頭のクロサイがアカゲラ国立公園に寄贈された。クロサイは世界で９００頭しか生息していない。この寄贈により、アカゲラ国立公園にはライオン、ゾウ、ヒョウ、サイ、バウファローのビッグ・ファイブがそろった。

・イスラエルから農業分野１５０人の学生に対する奨学金（１４日）

９月から１１か月間、１５０人のルワンダ人学生が、イスラエルにある Kineret College と Silver College に近代農業の習得を目的として留学する。学生は、近代的養鶏、園芸、漁業を学ぶ。同プログラムは、両国間で１５年間継続されており、毎年、約１００人のルワンダ人学生がイスラエルでスマート農業を学んできた。昨年は１４０人が留学した。在ルワンダ・イスラエル大使は、２０２０年までに同プログラムによる留学生を２５０人に増やすことを目標にしていると述べた。

・第１４回キガリ農業展示会の開催（２１日：RNA）

１８～２５日、「ルワンダ農業の競争力向上」と題した第１４回キガリ農業展示会が開催され、２０か国以上から３７０の団体が出展した。同イベントは、個人農家、金融サービス提供者、保険業、農産品・農業機器会社が情報交換をするプラットフォームである。

・国連人権理事会定期審査（UPR）の８０％達成（２２日）

２０日、ブシンゲ司法大臣・長官は、ルワンダは、２０１５年に採択された人権に関する国連人権理事会定期審査（UPR）の５０項目の勧告のうち４２項目を是正し、これまでに８０％達成したと述べた。４年ごとに行われるUPR本会議は、全ての国連加盟国の市民政治、経済、社会、文化的権利に関して査定する。ルワンダは２０１１年と２０１５年にUPRの審査を受け、同４年間で９４％改善した。

・女性警察官１６０人の南スーダン派遣（２７日）

２２日、ルワンダの女性警察官１６０人が、南スーダンにおける１年間の平和維持活動（UN-MISS）に派遣された。

・ルワンダ・東アフリカ地域電子パスポートの発行開始（２９日）

２８日、ルワンダは、出入国管理局を通じて、ルワンダ・東アフリカ地域電子パスポートの発行を開始した。ケニヤ、タンザニア、ウガンダが既に同電子パスポートを発行している。新しい特徴としては、埋め込まれたマイクロチップが改ざんを防止し、パスポート保有者の身元を確実にする生物学的データが組み込まれていることである。

・スウェーデンの大学15校への留学支援プログラム（29日）

28日、ルワンダ財政・経済計画省とスウェーデン政府は、研究と科学的知識の活用を目的として、ルワンダ大学に315億ルワンダ・フランを支援する合意書に署名した。2019年から2024年まで続く同プログラムは、提携したスウェーデンの大学15校での修士及びPhD課程の留学生の研究費用を全額支援し、ルワンダ大学のICTや同大学の図書館の研究インフラを整備する。

（了）